

31H 仲谷 怜朗 33H 宮西 希  
34H 徳永 陽友 35H 高山 葵衣 36H 南 優太

■課題（問題意識）

石川県の縦に長細い地形で高速道路による観光がし難い

■現状 1. (課題の背景) 観光地を巡る時間が多くかかる



能登半島は縦に長いうえ、海岸沿い以外は道が少なく、周回しようとなると3時間以上かかってしまう。

しかし、道沿いには観光地が多く、時間こそかかるが観光地を巡るのは便利である。

■現状 3. 観光地を回る際、直接行ける公共交通機関が少ない

鉄道路線営業キロ数 単位：km

1	北海道	2,657.20	44	山梨県	218.2
2	東京都	1,050.70	45	香川県	216.8
3	岩手県	1,023.40	46	石川県	183.7
4	兵庫県	971.90	47	沖縄県	12.9

面積：東京都 < 石川県  
路線の長さ：東京都 > 石川



網目状 ×  
= 観光地に近い駅少

既存の交通道路を用いた  
新たな交通プランが必要

■現状 2. 新しい交通設備を作る資金が無い

石川県の財政状況 単位：億円

	平成 26	27	28	29	30	令和元	2
支出	2803	2973	3820	3902	3938	3970	4730
収入	3891	4043	4103	4115	4173	4198	4973
差額	1092	1170	283	213	235	228	243

高速道路を1km建設するのに約50億円の費用が必要になる

急激に減少

■解決策 オンデマンド交通システムの導入

“個人の自動車での旅行と電車やバスなどの公共交通機関での旅行の二つのいいところを合わせた

新しい交通システム”

他県のオンデマンド交通システムの前例

・奈良県明日香村 かめバス  
→ 地域住民と観光客の交通手段として、循環バスと周遊バスを設置

利用者が増加し、経費が削減された

その他の地域で行われているオンデマンド交通システムの例  
長野県伊那市のいーなちゃんバス  
滋賀県松原市のマイちゃんバス  
大分県宇佐市のコミュニティバス「ふれあい号」  
名古屋市の基幹バス  
神戸市の住吉台くるくるバス

メリット

- ① 日帰りの気軽な旅行を楽しむことができる
- ② 運転する負担を無くすことができる
- ③ 公共交通機関と違い、他の人との接触がない
- ④ ネット予約で簡単に車をよぶことができる
- ⑤ 要望（ニーズ）に柔軟に応える  
行きたいところをピックアップして自分だけの観光ルートを作ることができる

住民の生活の足としても利用することができる。都市部では鉄道や、地下鉄に並ぶ交通機関として、観光客の集客に活用できる。

<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/htm/all.html>

■結論

能登の市営のバス会社が主となり補助金またはふるさと納税形式のクラウドファンディングを実施し事業立ち上げに必要な資金を調達する。まずは県内での実施を行い、ウェブサイトを作ったり SNS での広告も行ったりして全国各地の人に知ってもらい、その後他県と連携して遠方の観光客の増加を見込む。

専用のアプリを作り、ネット予約を簡単にできるようにする。また車には Wi-Fi 環境を設置し快適な旅を楽しんでもらう。

■効果

このシステムを導入することでストレスなく観光地にたどり着くことができる。退職後旅行に行きたいが足が悪く、運転も不安な方々、また、感染症が流行して密接な空間を避けるような状況でも人との接触を避けて快適に旅行を楽しむことができる。そうすることで能登の地形的の訪れにくいという交通機関の問題とともに観光客数の増加を促進できる。

■参考文献：都道府県データランキング 石川県 財政のあらまし